

国際平和デーに全国で平和を祈る鐘打式

令和7年(2025年)9月21日午前11時30分-午後2時
真言宗豊山派 神齡神齡山悉地院大聖護国寺 本堂、鐘楼及び月光殿
サマリーレポート: 井門孝紀



司会進行: 国際平和デー日本委員会事務局長 世界連邦日本国会委員会事務局次長 谷本真邦



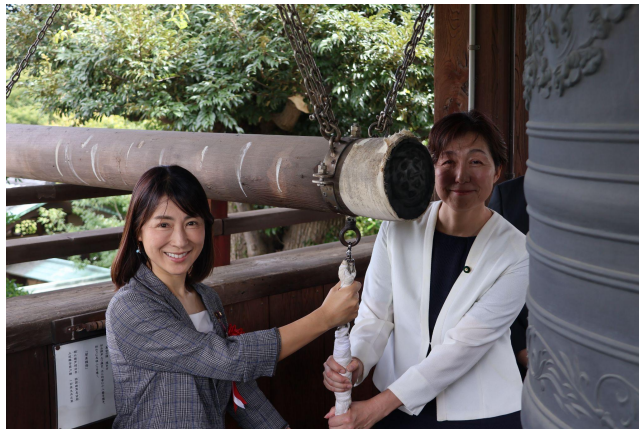
本式典参加者は、大本山護国寺に集合した後、ご本堂において法要を執り行い、その後、第55世貫主である関本貫首様よりご法話を賜った。続いて、代表者が鐘楼へと向かい、正午より鐘打を行った。終了後、参加者は国指定重要文化財である月光殿に再び集合し、黙禱を捧げたのち、代表者による挨拶、祝辞が行われた。



大本山護国寺本堂における御法要



関本関主様によるご挨拶



代表者による鐘打

来賓挨拶・祝辞

谷本真邦 国際平和デー日本委員会事務局長 世界連邦日本国会委員会事務局次長

司会進行の谷本真邦事務局長より、式典の開始が宣言された。その後、アントニオ・グテーレス国際連合事務総長の国際平和デーに向けたビデオメッセージが上映された。

長谷川祐弘 国際平和デー日本委員会委員長 元国連事務総長特別代表



ご紹介いただいた長谷川祐弘である。本日、国際平和デーに全国での平和を祈る鐘打式典に、かくも多くの方々に参列いただき、誠に感謝申し上げます。まず初めに、この歴史と由緒ある大本山護国寺を本部会場として提供くださった関本貫首様、そして関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

この平和を祈る式典を始めるにあたり、先ほど谷本から説明があったが、先月102歳で天寿を全うされた千玄室大宗匠の御霊に深い哀悼の意を表したいと思う。現在、国連協会では明石康先生に会長の職を継いでいただき、千玄室総長の志を引き継ぎ、多くの行事を行っていきたいと考えている。国連創設80周年という節目にあたり、私たちは改めて平和の意味を深く問われている。平和の祈りは行動の原動力であり、尊い第一歩である。しかし、その祈りを現実のものにするための具体的な行動が不可欠である。その力強い一例を、つい最近目の当たりにした。東京都の小池知事がニューヨークを訪問し、国連事務総長に国連組織を東京に誘致するという明確な意思を表明されたのである。これは、私たちが国連のもとで世界平和を実現し、維持していくことを願って働いている者にとって、非常に強い決意の表れであると感じている。

私はこの行事をさらに大きく、大胆なビジョンへと発展させるべきだと強く訴えたい。本日、私たちはここ護国寺をはじめ全国各地で心をつなげて平和を祈る。そして、この平和の鐘を契機に、紛争に苦しむ人々への思いを馳せると同時に、今後世界平和の実現のために行動することを誓う。本日ここから発せられる平和の鐘の音が、日本全国、そして世界へ響き渡り、人々の心に平和への祈り、平和を実現するための行動となることを願う。本日はご参加いただき、誠にありがとうございました。

小池百合子 東京都知事



国際平和デーに全国で平和を祈る鐘打式の開催を、心より喜び申し上げます。先の大戦が終結して80年、この間の我が国の発展、そして本日の平和と繁栄は、先人たちのたゆまぬ努力と安寧を切望する人々の思いの上に築き上げられたものである。一方で、ロシアのウクライナ侵攻や、引き続き惨状が伝えられる中東ガザ情勢など、国際情勢は混迷を極めており、我が国を取り巻く安全保障環境も戦後最も厳しく複雑な状況にある。国際秩序の不安定化に加え、気候変動、エネルギー問題、食料危機など、私たちの世界は幾重もの困難に直面している。

このような危機を乗り越え、未来を切り開くために必要なのは分断ではない。国々が力を合わせ、平和の尊さを追求する努力を重ねることにほかならない。私は都知事として、日本の首都である東京を、より強靱で誰もが快適に自分らしく暮らせる都市へと進化させ、未来の子供たちに引き継いでいく。そして、持続可能な世界の実現に向けて、全身全霊で取り組むことをここに誓う。結びに当たり、本式典の開催に尽力された長谷川実行委員長をはじめ、関係者の皆様に敬意を表する。本日まで参加の皆様のご健勝とご活躍を祈念し、私の挨拶とする。令和7年9月21日 東京都知事 小池百合子。

大橋光夫 世界連邦運動協会会長 祝辞

(代読: 谷本真邦 国際平和デー日本委員会事務局長)

本日は、国際平和デーに全国で平和を祈る鐘打式が開催されるにあたり、平和を祈られる方々、そして開催ならびに準備に尽力くださった関係者の皆様、ご参加の皆様に深甚なる敬意を表するとともに、祝意を申し上げます。

私事で恐縮だが、国際平和デーである9月21日は私の妻の命日でもある。彼女は生前、常に世界の平和を訴えて活動していた。私が世界連邦運動協会の会長をお引き受けし、行事に参加するようになってから3年が経つが、この命日に平和を祈る鐘打式に参加するにあたり、亡き妻の意思を引き継ぎ、私自身も世界平和に向けて一層努力しなければならないという思いを新たにしている。妻はこの活動を見守ってくれていると信じている。

私ども世界連邦運動協会は、世界の人々が国家、民族、宗教の違いを超えて助け合う世界の実現を目指しており、本日の鐘打式もその理念を共有している。私どもは参列者の皆様と連携し、世界恒久平和の実現のために更なる努力を重ねていく。そのことをここに誓い、私の挨拶とする。令和7年9月21日 一般社団法人世界連邦運動協会会長 大橋光夫。

無所属 額賀福志郎 衆議院議長 世界連邦日本国会委員会会長 祝辞

(代読: 谷本真邦 国際平和デー日本委員会事務局長)

本日午後、国際平和デーに全国で平和を祈る鐘打式が開催されるにあたり、ご参加の皆様、そして開催準備に尽力くださった関係者の皆様に深甚なる敬意を表するとともに、祝意を申し上げます。

ロシアによるウクライナ侵攻や、ガザをはじめとする中東情勢を目にすると、世界恒久平和の実現の難しさと大切さを改めて痛感する。しかし、このようなときこそ、中川千代治先生が世界中から軍刀やコインを集めて鐘を作り上げ、国連に寄贈された思いを忘れてはならない。私たちはその精神を思い起こし、平和の大切さを訴え続けなければならない。

本日の鐘打式では、全国各地の方々が党派や宗派を超えて心をつなげて平和を祈っている。世界連邦日本国会委員会も、平和を願う超党派の国会議員による組織として、参列者と連携しながら、世界恒久平和の実現に向けて更なる努力を続けていく。皆様のご支援とご協力を切にお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を祈念し、私の挨拶とする。令和7年9月21日 世界連邦日本国会委員会会長 衆議院議長 額賀福志郎。

立憲民主党 塩村あやか 参議院議員



皆様こんにちは。ただいまご紹介いただいた参議院議員の塩村あやかである。7月の参議院選挙で二期目を迎えることができた。1期目から外交安保の野党筆頭理事を務めさせていただき、長谷川先生のアドバイスもいただきながら、国連改革などの質疑を行ってきた。これから先、日本が先頭に立って恒久平和を築いていくために、国会でできることは数多くあると考えているので、皆様からの助言をいただきつつ、しっかりと活動していきたいと思っている。私は被爆二世でもある。今後も国会において平和の活動を行っていくことをここに誓い、私からの挨拶とする。本日は誠にありがとうございました。

谷本真邦 国際平和デー日本委員会事務局長 世界連邦日本国会委員会事務局次長

ここで、谷本事務局長より式典に参列している来賓の紹介がなされた。

- カンボジア大使館 ソク・テア公使参事官
- ベトナム大使館 グエン・ミン・ハン参事官
- 江森敬治氏(元毎日新聞編集委員長、皇室ジャーナリスト)
- 泊三夫氏(元博報堂常務取締役・顧問)

春日静子 国連平和の鐘を守る会 理事



改めまして皆様こんにちは。私は以前、小学校の校長をしていた。その際に高瀬聖子さんに本校へお越しいただき、平和の鐘についてお話をさせていただいた。子供たちは非常に感銘を受け、その様子は東京新聞にも報道された。

今、平和が大切であるということをお子たちに伝えることは極めて重要であると考えている。現在開催されている関西万博の国連館では、高校生たちが平和や石鎚山について、自分たちの考えを取り入れながら「私たちはどうすべきか」という観点を含めて発表を行った。それは実に素晴らしい発表であった。

私たちは今、自らが何をすべきかを考えると同時に、未来をつくる子供たちが平和について取り組んでいくことを応援しながら、これからも活動を続けていきたいと考えている。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

六反田京代 外務省 総合外交政策局 政策企画室 課長補佐



皆さんこんにちは。外務省総合外交政策局政策企画室の六反田である。本日はこのような式典にお招きいただき、誠に感謝申し上げます。本来であれば岩屋外務大臣宛に招待状を頂戴しており、大臣が出席すべきところであるが、国連総会に出席中であり、本日は上位の者も出席できないため、代わって私が参列することとなった。本来このような場で挨拶できる立場ではないが、ご容赦いただきたい。

皆様がお話しされた通り、国際情勢は極めて厳しい状況にある。外務省として何ができるかを日々模索しているが、岩屋大臣も石破総理もニューヨークで演説を行う予定であり、まさに対立と分断が深まる世の中を、対話と協調で乗り越えていく必要がある。日本政府としても、国会の先生方のご意見を伺いながら、力の限り尽力していきたい。どうぞよろしくお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

水野素子 前参議院議員



前参議院議員の水野素子である。7月の参議院選挙には出馬せず、現在は長谷川先生、谷本先生のもとで国連や平和に関するご指導をいただいている。私は議員になる前、18年間JAXA(宇宙航空研究開発機構)で勤務していたが、エンジニアではなく、文系として国際法や宇宙の平和利用に関わってきた。オランダのライデン大学で国際法の修士を取得し、国連の宇宙空間平和利用委員会にも度々参加してきた。

グテーレス事務総長が「国際法が無視されている」と述べられたが、まさにその通りであり、外務省の皆さんとも協力して改善に努めたいと考えている。私は塩村議員と同じ委員会で活動し、安保理改革や日本が平和の理念のもとリーダーシップを発揮すべきであることを、外務大臣にも共に訴えてきた。

ハーグにはICJ(国際司法裁判所)があり、国と国が対立した際には戦争以外の解決手段が存在する。外交や国連での協議、それでも解決できなければ裁判制度を用いるべきである。ICJに加え、ICC(国際刑事裁判所)も設置されており、両裁判所の所長を現在日本人が務めている。市民社会もノーベル平和賞を受賞した被団協のように平和のために尽力している。そうした中で、日本政府はもっと積極的にリーダーシップを発揮すべきである。

私はJAXA勤務の経験からも、宇宙から見れば地球に国境は存在しないと確信している。宇宙飛行士たちも同じことを語っている。アポロ計画で撮影された有名な地球の写真を見れば、国境は人間が人工的に引いたものであり、それを守るために命を失う戦争がいまだに起きていることは痛ましい。だからこそ、国際法と国際裁判制度がしっかりと機能する社会を築き、未来の子供たちに残していくことが重要である。

本日、観世音菩薩のお顔をご開帳いただき、私も改めて天から人類社会を見守る存在の思いを考えた。私たちがこの地球で生きる百年を全うする中で、平和な社会を築き直し、未来の子供たちに伝えることが私たちの責務である。その努力と経験こそが人類社会の進化をもたらし、次世代はより平和で良い社会を生きていくことができると信じる。

グテーレス事務総長が述べたように、「今日から活動を始めよう」という決意を胸に、私も改めて襟を正し、平和な社会のために共に努力していくことを誓う。

谷本真邦 国際平和デー日本委員会事務局長 世界連邦日本国会委員会事務局次長

ここで離席していた来賓が戻られたため、谷本事務局長より全体に向けて紹介があった。

- 山本忠通(国際平和デー日本委員会副委員長、元国連事務総長特別代表、元UNESCO大使)
- 田中朋清(石清水八幡宮権宮司、日本国際連合協会理事、世界連邦日本宗教委員会事務総長)
- 宍野史生(富士道神道扶桑教六世菅長、世界伝統文化推進協議会理事長)

関本隆人 真言宗豊山派 神齡山悉地院大本山護國寺 第55世貫首



大変僭越であり、また急なご指名ではあるが、一言申し上げます。本堂は400年以上の歴史を有し、月光殿はさらに古く500年近い歴史を持つ建造物である(移築であるが)。私は55代目の住職であり、この歴史が刻まれてきたのも、平和があったからこそだと思う。そしてその平和を守るために努力して下さった方々の支えがあったからである。

さまざまな立場で活躍されている皆様のお言葉を伺い、小さな場からでも平和を意識し、その輪を広げていけば、必ず平和への祈りに至ると信じている。今日は観音菩薩のご開帳と月光殿での式典の中で、私が楽しみにしていたのは大宗匠にお会いできることだった。護国寺には大宗匠とご縁があり、何度も足を運ばれ、御献茶もいただいている。本日はその美德を偲び、後ほど月窓軒にお飾りしている御遺影に手を合わせていただければ幸いである。

先人たちの平和の祈りと願いを、これからも皆様と共に繋いでいきたいと念じている。本日は誠にありがとうございました。

谷本真邦 国際平和デー日本委員会事務局長 世界連邦日本国会委員会事務局次長

谷本事務局長より終了が案内され、本式典は終了した。終了後、参列者は月光殿隣の月窓軒および月光殿の縁側において、庭を眺めながら茶を飲み、歓談した。



参列者がお茶を楽しむ様子

2025年9月21日 国際平和デーに全国で平和を祈る鐘内式 出席者

(敬称略)

<神齡山悉地院大本山護國寺>
関本隆人 第55世貫首

<国会議員>

立憲民主党 参 塩村あやか
国民民主党 衆 鳩山紀一郎
元職 参 水野素子

<東京都>

小池百合子 都知事
自民 早坂義弘 都議会議員

<外務省 総合外交政策局 政策企画室>

六反田京代 課長補佐

<カンボジア大使館>

ソク・テーア 公使参事官

<ベトナム大使館>

グエン・ミン・ハン 参事官

<国連平和の鐘を守る会>

春日静子 理事

<日本国際連合協会>

田中朋清 理事

<世界伝統文化推進協議会>

宋野史生 世界伝統文化推進協議会理事長

<その他ご来賓>

江森敬治 皇室ジャーナリスト 元毎日新聞編集委員長
泊三夫 元博報堂常務取締役・顧問

<国際平和デー日本委員会>

委員長 長谷川祐弘 元国連事務総長特別代表
副委員長 山本忠通 元国連事務総長特別代表 元ユネスコ政府代表部特命全権大使
事務局長 谷本真邦 世界連邦日本国会委員会事務局次長 世界連邦運動協会理事

<事務局>

世界連邦運動協会 理事 塩浜修
世界連邦青年会議 理事 山本貴之
〃 副代表 井門孝紀
〃 青年会議メンバー諸君